

第 37 回豊橋市小中高特連携教育推進協議会議事要録

令和 7 年 5 月 27 日 開 催

豊 橋 市 教 育 委 員 会

第 37 回 豊橋市小中高特連携教育推進協議会

日時	令和 7 年 5 月 27 日（火）午後 2 時 00 分～午後 3 時 00 分
場所	豊橋市教育会館
出席者 敬称略	<p>教育長 原田憲一</p> <p>教育委員 中島美奈子 西島 豊 内浦有美 渡辺嘉郎</p> <p>高等学校等校長 寺田安孝（時習館） 鈴木敏夫（豊橋東） 牧野仁志（豊橋西） 脇田広信（豊橋工科） 佐羽尾稔幸（豊橋高） 神木 聡（豊橋豊） 彦坂充俊（豊橋特別支援）</p> <p>満田康一（桜丘中） 横山貴美（桜丘） 伊藤貴章（藤ノ花） 高倉嘉男（豊橋中央）</p> <p>小中校長会 羽生あゆみ（富士見小） 鈴木孝昌（豊岡中） 吉倉真紀（豊小） 河合厚志（中部中）</p> <p>代理出席 白井陽子（くすのき特別支援教頭）</p> <p>事務局指定委員 石川和志（教育部長）</p> <p>※欠席者： 渡辺嘉郎（教育委員） 山畑真樹（豊丘） 鈴木真紀（豊橋南） 間瀬泰宏（豊橋商業） 中村三木也（羽根井小）</p>
オブザーバー	<p>小野勇一（東三河教育事務所指導課長） 野沢和代（東三河教育事務所主査）</p> <p>加藤千晴（豊川市教育委員会指導主事） 白井純子（新城市教育委員会指導主事）</p> <p>鵜飼 毅（田原市教育委員会指導主事）</p>
事務局	鈴木大介（教育政策課長） 木全 功（教育政策課主幹） 他 7 名

次 第

- 1 教育長あいさつ
- 2 副会長紹介
- 3 昨年度の活動報告と今年度の活動の方向性について
- 4 東三河小中高特連携教育推進協議会について
- 5 連絡事項（事務局）

議事録

(中島会長)

本日は、ご多用の中、ご出席をいただきありがとうございます。

定刻になりましたので、ただ今から、「第37回豊橋市小中高特連携教育推進協議会」を開催いたします。私は、本協議会の今年度の会長を務めさせていただきます、教育委員の中島でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。大変不慣れでありますので、皆様からの積極的なご発言をどうぞよろしくお願ひいたします。

はじめに、本協議会に初めて参加する委員の方や代理出席の方もおられますが、お手元の資料をもって紹介に代えさせていただきます。よろしくお願ひします。また、平成25年度からは、東三河他都市の教育委員会や教育事務所の方々にもオブザーバーとしてお声がけさせていただいております。本日は、東三河教育事務所、豊川市教育委員会、新城市教育委員会、田原市教育委員会の方にご出席をいただいております。また、各分科会の委員をお引き受けいただいた皆様方にもお越しいただいております。

それでは、次第にしたがって、協議会を進めてまいります。はじめに、「1 教育長あいさつ」豊橋市教育委員会 原田教育長より、ごあいさついただきます。

(原田教育長)

皆様こんにちは。ご紹介をいただきました原田憲一です。各学校におかれましては、いよいよトップギアに入っていく時期かと思ひます。

私はよくピンバッチをつけるのですが、今日は四葉のピンバッチをつけてまいりました。なぜつけてきたかという、小中高特の4枚の葉が一つになって、幸せの四葉のクローバーの様でいいなと思つたからです。

この豊橋市小中高特連携教育推進協議会についてであります。本年度から新たに委員になられた方もみえますので、私から改めて本協議会についての説明をさせていただきます。

この協議会は平成20年度末に発足し、21年度から数えまして今年で17年目になります。発足当時、小中学校間の人事交流は活発に行われていたのですが、高等学校とは安定した交流が行われておりませんでした。県立の高等学校と市立の小中学校では、設置者が違うため、交流がうまくいかなかったということがあるかと思ひます。また、本市の教育委員会が策定をいたします教育振興基本計画では、18歳までの子どもの育ちを基軸とした政策を体系化していますが、義務教育を卒業したところでその繋がりが途切れてしまうという溝が存在しておりました。そこで、教育の入口にあたる幼稚園、保育園、こども園等から、出口にあたる高等学校等まで、子どもの成長段階に応じて連携するシステムを作ることが必要であるという考えのもとに、研究の大きな方向性を決める場として、この協議会を立ち上げ、具体的な作業を推し進める場として四つの分科会を設けました。

その後、何度か分科会の増減はありましたが、現在は英語教育、理科学教育、特別支援教育、言語能力、この四つの分科会で小中高特の教員が連携しながら活動しております。そして、令和4年度からは豊橋市内の私立4校の方にも委員になっていただきまして、より一層横の繋がりが強化されて現在に至っております。

私は教育に関して、教育は未来を創る営みであると考えております。今後も本市及び東三河の小中高特の学校が縦横の連携を深めて、次代を担う子どもたちの生きる力を磨き深めていけるよう、頑張っていきたいと思っておりますので、皆様のお力添えをどうぞよろしくお

願いいたします。本日は、よろしく願いいたします。

(中島会長)

ありがとうございました。続きまして、次第の2、本会の副会長を紹介します。副会長は、本会の規約第5条第3号により、私から指名させていただきました。時習館高等学校長の「寺田委員」と羽根井小学校長の「中村委員」にお願いしたいと思います。また、会長の職務代理者については、本会の規約第5条第7号により、副会長の中から、私が指名をさせていただくことになっていますので、「寺田委員」をお願いしますが、本日は急用への対応のため、到着が少し遅れるとのことです。後ほど寺田委員が来られたときにご挨拶をお願いしたいと思います。

次に進めます。次第の3「昨年度の活動報告と今年度の活動の方向性について」を進めてまいります。協議の進め方ですが、はじめに協議会全体に関することについて説明し、その後、各分科会より「提案」と「協議」を行います。最後に「全体を通じた意見交換」の場もありますので、その際に意見を述べていただいても結構です。発言の際は、係の者がマイクを持っていきますので、お名前に続きまして、マイクを通して発言して下さるよう、よろしく願います。それでは「協議会全体にかかわること」について、事務局から説明をお願いします。

(教育政策課長)

全体にかかわる動きとして1点お話させていただきます。今年度5月9日に発出している文書についてですが、豊橋市立の小中学校の各教科等研究部が行う授業研究会を高等学校にも案内しております。授業研究会の一覧にもありますとおり、今年度も積極的にも案内いたしますので、よろしく願います。募集方法は、各研究部から上がってきた実施計画をもとに教育政策課が開催通知を作成し、各高等学校等にご案内させていただきます。この取り組みによって、小中高特の縦のつながりが強力になっていくことを期待しております。以上でございます。

(中島会長)

ありがとうございます。

続きまして、各分科会の委員長から、昨年度の活動と今年度の方向性等についてお話をいただきたいと思います。各分科会、「提案」と「協議」合わせて10分弱しか時間が取れませんが、有意義な時間になればと思います。最初は「英語教育分科会」です。委員長の豊岡中学校長、鈴木委員からご報告をお願いいたします。

(鈴木委員)

豊岡中学校の鈴木孝昌でございます。本会の委員長を昨年、今年と続けて仰せつかりましたので、どうぞよろしく願います。

まず、昨年度の活動報告ですが、小中高における教育内容の共通理解を図り、円滑な接続が可能となるようにということを目指し、三つの活動方針を掲げて活動を行いました。一つ目が公開授業、協議会を通じた相互交流の充実、二つ目が分科会での小中高の繋がりを意識した協議の実施、これは具体的には、小中高の先生を三つに分けてグループ化して協議会を行ってまいりました。三つ目が英語部報による小中高における情報発信です。英語部報は、

豊橋の小中学校英語研究部で年に6回ほど発刊している部報のことです。こちらでも高等学校の先生方に渡るように活動を続けており、高等学校の先生から協議会分科会でいただいたご意見を部報としてお伝えしております。

昨年度、分科会は年間5回行いました。第1回は紙面開催になってしまいましたが、第2回は賀茂小学校での授業研究会、第3回は東陽中学校の授業研究会として行いました。第4回は豊橋東高校での公開授業を見学し、それぞれ小中高特の子どもの学び、指導のあり方を共有し合う大切な活動となっております。第5回は活動総括として、英語部会は紙面開催で行いました。

分析についてですが、活動方針の①公開授業、協議議会を通じた交流の充実については、小中高の授業を参観することが最も価値のあることを再認識することができました。また、小中高の連携を踏まえた情報交換を行うことができました。活動方針の②小中高の繋がりについては、すべてのグループに小中高の先生方を配置して協議を進めてまいりました。活動方針の③英語部報については、継続的に発刊できておりますので、それぞれの分科会、協議会で出た声を、参加できなかった部員の方にも渡るようにしております。分科会以外の活動についてですが、小中学校の英語研究部が運営している「夏休み英語体験活動『I LOVE TOYOHASHI!』English Camp」に、昨年度、御津あおば高校の生徒が参加協力をしてくださり、ゲームの時間やプレゼンテーションの時間に、一緒になって手伝ったり、ゲームを盛り上げたりという活動を行いました。

次年度への課題ですが、小中高特の縦の繋がりが実際にどう図られたかについて部報を使って周知を図りましたが、実際に縦につなげた情報を横への広がりとして今後も推進させていく必要があるということ課題と考えております。また、小中においては、問題解決的な学習、ICTの活用、個別最適な学びと協働的な学びをキーワードにして、研究を進めるとともに、高校においては小中学校の子どもがぐり抜けてきた学びのトンネルを、どう昇華させていくのかを、それぞれの高校での公開授業という形で拝見させていただくことによって、よかった点や課題を生み出す活動につなげていきたいと考えています。中学校の場合は、通知表で1から5までの子どもたちが一つの教室で同じ課題に取り組む中で、個別最適な学びとしてどのように対応していけばよいかを課題として進めていきます。一方、高校では似たような成績の子が集まりますので、その中で、高校英語は難しいけど、やはり英語は楽しいということをぜひ引き続き教えていただきたいということが、英語部会での大きな目的にしているところです。

豊橋は八町小学校のイメージ教育に注目が集まりがちですが、この小中高特においては、英語の苦手な子も得意な子も一緒に行う授業を目指しています。粘り強い活動を小中高特の協議会の中でさらに広げていけたらと思っています。

今年度の活動予定については、授業公開を岩西小、南稜中、高等学校は検討中ということで、持続可能な活動を続けて目標を達成できるように、活動内容にいろいろ変化を加えていきたいと思っています。以上でございます。

(中島会長)

ありがとうございます。ただ今のご報告について、何かご質問・ご意見等はございませんか。

それでは、次へ進めます。寺田委員が到着されましたので、寺田委員から一言ごあいさつをお願いいたします。

(寺田委員)

時習館高等学校の寺田です。遅れてしまって申し訳ありません。

この度、小中高特連携教育推進協議会に向けて、県立高校や特別支援学校、また私学の皆様に多大なご協力をいただきながら進めているところでございます。地域の子どもを地域で育てなくてはならないことを私も大変大切にしていくなかで、それぞれの立場やありようによらず、子どもたちのために我々が尽くすべきところはしっかりと対応していくことが求められていると考えております。こういった機会を活用していただき、よりよい教育が遂行されますよう、心から対応しつつ、今日のこの会議が有意義に進みますことを、お願いさせていただきます。よろしく願いいたします。

(中島会長)

ありがとうございます。そして、続けて理科学教育分科会の報告を委員長の時習館高等学校校長、寺田委員からお願いいたします。

(寺田委員)

令和6年度の理科学教育分科会の活動報告でございます。取り組み目標につきましては、三つあります。①小中高の連携を深める、②小中高の指導の系統化を図る、③教員の資質向上を図るでございます。

活動状況です。第1回目は5月28日の火曜日、紙面開催という形で、活動報告を始め、内容を共有させていただきました。第2回目は7月5日の金曜日、時習館においてSSH（スーパーサイエンスハイスクール）成果発表会に多くの方々にご参加をいただきました。SSHとは、探求2という科目の中で本校の生徒が自ら研究発表するというスタイルでございます。理系と文系の生徒それぞれ数十グループが参加し、すべての生徒が発表するという形で参加させていただいており、大きな評価をいただいております。続いて、第3回目ですが、8月23日金曜日に先生方のための理科実験講習会と視聴覚教育センターで実施しました。別の行事と重なっている関係で参加された先生方は9名でした。内容については45分かける3講座というところで、講座1、講座2、講座3として、生物の領域、物理の領域、天文の領域について、それぞれ担当の先生方からのご指導をいただきました。第4回目は9月20日の金曜日に、小学校の理科の授業研究会ということで、磯辺小学校で小学校児童と先生を講師として授業研究を行いました。それに引き続き、研究協議会を実施いたしまして大変盛り上がったと感じております。第5回目については、紙面開催で1年間のまとめとして行いました。この小中高特の連携については、理科に関しては非常に親和性が高いということもあり、これまでも長きにわたる取り組みを通じて大きな成果を上げてきたと思います。また、教育課程上、同じ領域の内容を小中高と続けて学習することによって、学びの深まりを目指していくということも、効率的に取り組むことができると考えております。このような取り組みを通じて、先生方の資質向上に資するものであると感じております。

最後に、次年度の課題としまして、①理科実験講習会・理科研究部授業研究会についての情宣の工夫、②小中学校理科授業における教材教具の開発協力についての情宣の工夫、③時習館SSHとのさらなる連携、④東三河小中高特連携教育推進協議会との連携の4項目を掲げさせていただき、引き続きとなりますが、令和7年度に向けても、よい活動になることに積極的に取り組んでまいりたいと考えております。以上でございます。

(中島会長)

ありがとうございます。

ただ今の報告について、何かご質問・ご意見等はございませんか。

(西島委員)

報告の中で、特に小中高連携の中で理科学はすごく親和性が強いということで、大きな成果に繋がっているという言葉がありましたが、その詳細をもう少し聞きたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

(寺田委員)

生徒が探究活動を通じて、理科について学びを深めていったその成果を先生方に直接聞いていただく場面を継続的に設定することができることが、大きな成果として注目していただきたいところです。

また、本校は、スーパーサイエンスハイスクールとしては東日本唯一の学校でございますので、私どもの学校の取り組みの構想が高水準で、理科教育の象徴的な取り組みになっていると感じています。これを広く先生方にも知っていただく価値もあると感じておりますから、こういった機会が継続的に実施されていることは大きな成果になっていると思ひます。理科の実験講習会は、先生方向けの講習会と位置付けている中で、実は理科教員の中でも大きな課題の一つとして、実験実習のスキルをいかに次の世代の先生方に継承することができるかというところが挙げられております。大学等でも、受験実習等で最先端領域のスキルが身につけている一方で、顕微鏡の取り扱い方や、花や自然の事物を直接観察するといった経験は必ずしも今の先生方が豊かに備えていると限らないのです。こういったことをベテランの先生方から直接支援を伝えていくという機会を通じて、結果として子どもたちが豊かな自然について学ぶという機会が広がっていくという、講習会が大きな成果に結びついていると考えております。以上でございます。

(西島委員)

よくわかりました。ありがとうございます。

(中島会長)

続きまして、「特別支援教育分科会」に移ります。委員長代理のくすのき特別支援学校教頭、白井先生からご報告をお願いします。

(白井教頭)

令和6年度の特別支援教育分科会の活動報告ですが、一つは、「豊橋版 個別の教育支援計画の活用と引継ぎの手引き」の改訂を行う。そして、二つ目は「改訂版 個別の教育支援計画」の活用のための啓発と内容に関する周知理解を図るために、くすのき特別支援学校と情報交換をしていくというものでした。

活動状況は4回の分科会を実施し、その成果として、手引きの改訂が終わり、活用しやすくするために、小中学校の先生がアクセスできるイントラネットに手引きや資料をあげるとともに、冊子を各学校に配付し、個別の教育支援計画や豊橋市の特別支援計画の活用推進を行いながら、情報交換をして進めてまいりました。今後の活用につきましても情報交換しな

がら進めていきたいと思ひます。それが令和7年度の目標にもなっています。

また、今年度ですが、教育支援計画を整えて、その後、中学校そして高校の卒業を見据えた進路についての情報共有をしながら進路ガイドブックの作成、それから異校種の授業参観による交流・情報交換を行います。

この特別支援学校の授業参観による交流・情報交換ですが、今年度くすのき特別支援学校は、東海地区特別支援学校教育特別支援学校、知的教育の特別支援学校としての研究大会を本校が主管校として開催する運びとなっております。これは静岡、愛知、岐阜、三重の4県の知的教育の特別支援学校が集まって研究、発表する大会ですが、本校は豊橋市立の学校として、豊橋市にも還元をしていきたいと思ひますので、校長先生方にも相談させていただき、研究発表会には、豊橋市内の小中学校の先生方にも参加いただき、記念講演にも参加できるようにと考えております。

(中島会長)

ありがとうございます。ただ今の報告について、ご質問・ご意見等はございませんか。

それでは、言語能力分科会に移ります。委員長の豊小学校長、吉倉委員からご報告をお願いします。

(吉倉委員)

昨年度より言語能力分科会の委員長を務めさせていただいております吉倉と申します。

令和6年度の活動報告ですが、取り組み目標の一つ目は、言語能力育成のための言語活動ハンドブックの最終校正・発刊です。皆様の机の上に言語活動ハンドブックを置いてありますが、こちらは令和5年度までに原稿が一度できていたものを昨年度のメンバーで推敲し、見直しと修正をした上で、冊子を作成しました。

目標の二つ目は、教師の資質向上を図ることとして、言語能力を高めるための言語活動の取り入れ方等を考えてきました。活動状況としましては、第1回は悪天候のため紙面となりましたので、夏休みを生かしてそれぞれ分担したところを推敲や訂正をし、それを持ち寄って第2回、第3回、第4回と分科会メンバーで確認をしてきました。ページの中で、いろいろな言語活動の大事なポイントですとか、小学校においては低学年・中学年・高学年の発達段階に応じたもの、中学校へ向けての内容等、このような授業場面で使えるのではないかと、国語だけでなく他教科でも生かせる活動はないかななどを検討し、また、ポイントが見やすいようにレイアウト等の配置の見直しも行いました。

成果としては、様々な学校種の様々な教科の先生が集まって、それぞれグループを組みながら原稿について議論を重ねている様子を見て、高校の先生が「小学校や中学校で学習させている様子がよくわかった」とおっしゃっていただいたり、それぞれの教科の方が、それぞれの立場から意見を言うことで交流につながったりしたことが、メンバーの中で学びになったと思ひます。

本年度は、作成したハンドブックについて校長会議で担当指導主事から各学校の校長に紹介させていただいて、活用の依頼をしました。この後、学校の職員数に応じて配られる予定です。今後、継続的に作成、配本されるわけではありませんので、各学校で担任や教務主任など指導的な立場の先生に配っていただいて、各校で継続して持ち上げて使っていただきたいと思ひております。ようやくこのハンドブックが完成してお配りすることができたのですが、実際にこれをどう活用していくかが本当に大事で、今年度はこのハンドブックを教員がどの

ような場で活用して、どのように生かしていくかをメンバーで検討していくとともに、言語活動を意識した公開授業を行い、小中高特の先生が交流できるよう、国語研究部では12月2日に説明的な文章で授業に取り組むことになっています。

国語が専門でなくても、言語ハンドブックが手元にあり、言語活動の指導のポイントを学ぶときの手がかりにさせていただきたいと思います。学校で教務主任や授業検討するいろいろな年代の先生が集まる時に使っていただくとか、そういったところでもうまく活用し、具体的にいろいろなお力やアイデアをいただきながら考えていければと思っています。ぜひご活用いただけたらと思います。以上です。

(中島会長)

ありがとうございます。ただ今の報告について、ご質問・ご意見等はございませんか。

(内浦委員)

今初めて拝見させてもらいましたが、本当に素晴らしいと思います。私は保護者の立場で教育委員を務めていますが、保護者がこのハンドブックを目にすることがあったら「先生たちはこんなことを考えて授業をしてくださっている、組み立ててくださっているのだ」と理解することができると思います。家庭の中での言語活動も減っていく中で、家庭でもこういうことに気をつけたいという気づきの点は多いと思います。多くの保護者に知っていただくような機会があればいいなと思った次第です。以上です。

(西島委員)

教育現場でいろいろ悩まれていることに対して、的確にまとめられていると思いました。今後の活用をどうするかというのは非常にポイントだと思うのですが、これを活用することで、これまでのやり方が変わるきっかけになる可能性もあると思いますので、素晴らしいものができたと思います。

(河合委員)

中部中学校の河合です。授業案を作るときに、言語活動の一つとしてペア学習や班でのグループトークという活動を取り入れることが多くあると思います。ただ、授業者が、何のためにペアなのかグループなのかかわからず授業案を作成していることがあると思います。このハンドブックでは、こういう目的だからペアで話し合うということが書かれているので、授業案作成に生かしていけるといいなと思いました。授業案をこれから作成していくときに、何を目的として話し合いを進めていくのかという視点を抑えるために生かしたいなと思いました。以上です。

(羽生委員)

富士見小学校の羽生です。私も言語活動ハンドブックを読ませてもらったのですが、活用できるところがたくさんあると感じました。このハンドブックは、学校に置くという形ですので、マーカーや付箋を入れたいと思っても、来年度使う人のことを考えると、そこまでできないところでためらうことがあると思います。できたら個人持ちになるといいなと思いますが、その辺りについてお伺いしたいです。

(吉倉委員)

今のところは今回限りということで聞いています。私も羽生先生がおっしゃったように、書き込んだり線を引いたり、本来はそれくらい使い込んでいただけると本当に嬉しいと感じます。学校によって、例えば、このハンドブックを1年1組のものとするとなれば、次の1年生の先生がチェックを入れたところを参考にしてもらってもよいかと思います。

高校生とか中学生だったら、スピーチを考えるとインタビューを考えたとき、教科書以外に使えるものがあるといいと思います。無断複写禁止と書いてあるので、どうしたらよいか考えています。

(中島会長)

ありがとうございます。活発なご意見、ご感想をいただきまして、そろそろお時間がまいりました。せっかくなので少しお話をさせてください。個人的に私は幼保が専門です。豊橋西高校がすごく近いところにある園なので、幼保と高校で交流、実践を行っています。教育長が冒頭のごあいさつのときに、四つ葉ということで、幼保も入れて五つ葉にならかと思いましたが、その中へ幼稚園保育園もと言っただきまして本当にうれしい思いです。小中高特連携で繋がっていくと思っております。

それでは次第の「4、東三河小中高特連携教育推進協議会について」、東三河教育事務所よりご説明をお願いします。

(東三河指導課長)

東三河教育事務所で指導課長を務めております小野と申します。私からは、東三河小中高特連携教育推進事業について簡単にご説明をさせていただきます。

私どもも、8市町村の教育長様や教育委員の方、県立学校長の代表の方、小中学校校長先生方、そして教育事務所が事務局となり、東三河小中高特連携教育推進協議会を推進しております。東三河振興ビジョンの教育分野での取り組みとして、現在三つの事業を行っております。この三つの事業は、これまでの形から変更して行っているものもあります。今日、豊橋市の取り組みを聞かせていただく中で、理科教育や英語教育がずっと培ってこられたことがとても参考になると聞いておりました。私どももこれから改良して、よい形にしていきたいと考えております。

私からは、「ほの国」未来セッションについて、説明させていただきます。東三河の8市町村の中学校の1年生、2年生を対象に、将来の夢や進路を考えるきっかけとして、三つのことをやっており、東三河の高校を卒業して社会で活躍している15人の先輩のインタビューの動画を掲載しています。それから学校、学科紹介ということで、東三河の高校の紹介学科の紹介、さらには、中学生からの質問に対して、高校生や高校の先生が答えるという質問ボックスという三つの事業を行いました。11月から3月までに、このウェブページを開催しており、各中学校でたくさん活用していただき、本当にありがとうございます。本年度についても、「ほの国」未来セッションを同じような形で進める計画で、今現在改良すべくスタートをし始めております。本年度もよろしく申し上げます。

(指導課主査)

私からは、異校種授業交流についてご説明いたします。昨年度は、蒲郡市立大塚中学校と県立豊橋商業高校で授業を公開していただきました。参加者は、小中学校の先生、高校の先

生、特別支援学校の先生で約40名以上の先生方に参加していただきました。参加していただく先生方には、大塚中学校、豊橋商業高校両方に参加していただくようお願いをしました。それぞれ授業を参観していただいた後、協議会を行いました。大変活発な意見交流がされたと聞いております。また、感想には教育の繋がりを感じられるとてもよい機会となったなど、それぞれよりよい勉強になったことが多くの参加された先生方の感想からわかりました。

続きまして、専門学科を有する県立高校と特別支援学校における初任者研修についてです。東三主催で行う研修の一環として、豊川、蒲郡、田原市の初任者については、県立三谷水産高等学校で、新城設楽地区の初任者については、県立新城有教館高等学校で授業等へ参加させていただきました。また、東三管内の初任者全員で、愛知県立豊橋豊学校にて授業参観やグループ協議をさせていただきました。両方とも大変勉強になりました。

本年度の予定としましては、異校種交流を本年度も10月から11月にかけて、東三の中学校1校と県立高校1校で授業公開していただき、授業交流をさせていただきたいと思っております。初任者研修についても本年度、域内の学校を訪問させていただく予定です。

(中島会長)

ありがとうございます。ただ今の報告について、何かご意見等はございませんか。

(高倉委員)

豊橋中央高校の高倉です。いつも東三河小中高特連携教育推進事業の発表のときに、話をさせていただくのですが、毎回お伝えしているのは「ほの国」未来セッションで、どうしても公立高校中心になってしまっているのも、ぜひ私学も含めてやっていただきたいということです。毎回検討しますという答えをいただいておりますが、明確な回答をいただきたいと思っております。

(中島会長)

東三河教育事務所はオブザーバーでの参加ではありますが、高倉委員の意見に対して是非、明確な回答をお伝えいただければと思います。

それでは、続いて次第の5「連絡事項」に移ります。事務局、お願いします。

(教育政策課長)

■連絡事項 教育政策課長説明

(中島会長)

ただ今の連絡事項に、何かご質問はございますか。

それでは、以上をもちまして、「第37回豊橋市小中高特連携教育推進協議会」を終了いたします。

本日は、ありがとうございました。